

練習は嘘をつかない。
やった分だけ上手くなる。



大石 慎之介選手

ベルテックス静岡 SG・PG(#1) 大石 慎之介 (おおいし しんのすけ)

1987年沼津市生まれ。大岡中(全中ベスト16)、飛龍高校(インターハイ3年連続出場)、浜松大学(現:常葉大学 東海リーグ4連覇)を経て、bjリーグへ。2012年、浜松・東三河フェニックス(現:三遠ネオフェニックス)に移籍。2018年よりベルテックス静岡。ツーポイントシュートを得意とし、相手の嫌がる執拗なディフェンスが持ち味。身長171cm。2019-20シーズン選手会長。

小学3年生の時、近所のお兄さんに誘われて練習を見に行ったのが最初でした。攻守の切り替えが早く、得点がたくさん入るバスケの魅力にハマり、両親に話をし、すぐにミニバスに入りました。全くの未経験ですから、最初は練習に参加できず、コート外でのドリブルばかりでした。でも、上手な子は練習に入っていくんです。それが悔しくて悔しくて。ミニバスは週3日でしたが、残りの4日もやりたくて、リングを買ってもらい、毎日一人で暗くなるまで必死に練習しました。できないことが悔しいから、できるまでやる。自分では努力しているという感覚はなかったですね。

6年生の時にはキャプテンを任せられ、東部では常に上位でした。でも、西部には全国優勝の新居小学校がいて、ミニバスでは県ベスト8止まり。僕たちは、打倒新居に燃えていました。中学校へ進学しバスケ部へ入部したものの顧問の先生は競技経験が無く、「スラムダンク」を見てバスケを好きになった方でしたが、独学で勉強し、熱心に指導してくれたんです。新居中に勝つためにチームがつになり、ひたすら練習を重ねました。新人戦で初めて勝利した時は本当に嬉しかったですね。新居中とは毎回決勝で顔を合わせ、会長杯では負けました

が、中体連は第4Qに逆転勝利し全国へ。負けず嫌いの仲間が揃った、本当にいいチームでした。高校に入ると、要求レベルが高くなり、先生に怒られてばかりの毎日。小中では自由になっていたのが、なぜ自分ばかりと思う時もありました。悔しいから、昼休みもお弁当を食べてすぐに体育館に行くと、仲間とギリギリまで練習していましたね。今思えば、自分に成長して欲しい期待からですが、その時は全くわかりませんでした。大学、社会人と大人になるにつれ、その意味が理解できるようなり、高校時代に精神的に鍛えられたことは、プロ選手になっても凄く生きています。周りから言われた落ち込みや、普通段は口出しをしない親から「あんまり考え過ぎないで、自分のペースで周りを引っ張っていけばいい」と言われ、気持ちが楽になったことは今でも忘れません。

周りに支えられ、仲間にも恵まれ、苦しい時期を乗り越えることで、技術も精神面も強くなりました。大学4年の時には、東海リーグのMVP、アシスト王、スティール王、DF王を獲得し、オールジャパンにも選ばれました。身長も高くない、バスケセンスも最初からあった訳ではない僕が、プロになることが大切だと思います。



大石選手から
チームマスコット
ベルレイとくまの
プレゼントが！
詳しくは22ページへ！